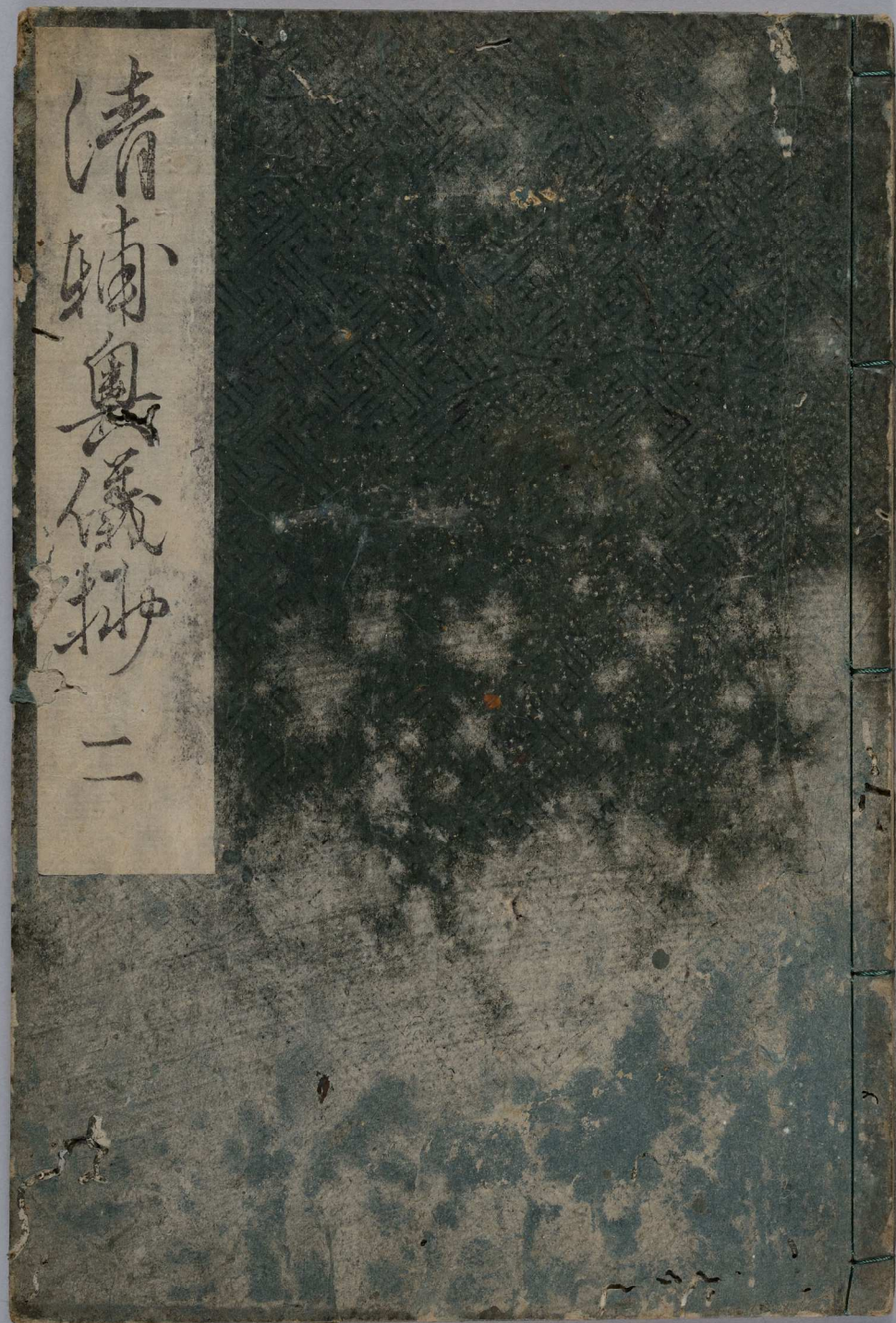




清輔奥儀抄 二

都留文科大学附属図書館所蔵



奥義抄 上之末

あつさ年のはつちいふじういふいふも
とくもいふもいふもいふもいふもいふも
やうじんちあつちれあつちあつちあつち
たあつちいふもいふもいふもいふもいふも
とくもいふもいふもいふもいふもいふも
も也

△ 北三盗古斗證斗

餘證歌在二字抄仍不注之

篁卿

古今

これにちかぢとあはれしをいふ

良拳宗貞

周

夜のいろはをいふ。あてはふは

人丸

万葉

いふまゝのうゑにちかぢとあはれ

貫之

古今

いふまゝのうゑにちかぢとあはれ

わつさくはうのうゑにちかぢとあはれ

無名

万葉

いふまゝのうゑにちかぢとあはれ

山田

古今

いふまゝのうゑにちかぢとあはれ

作者不詳

万葉

いふまゝのうゑにちかぢとあはれ

古亭

無名

あはれなるやうにふりては

元方

同

うづつとふりては

躬恒

後撰

ひらりやうにふりては

忠孝

古今

うづつとふりては

拾遺抄

中務

あはれなるやうにふりては

無名

あはれなるやうにふりては

兼盛

拾遺

あはれなるやうにふりては

のやちよと人老ふまで

泮望

夏

紅紫とぬれわたるもせむ
もや枝なうらうらん

泮宣

みちもぬれわたるもせむ
そのもろれてや枝をあらん

月人

蒙花集

花うぬとふみのさうらひも
その枝なれやも枝をあらん

基康親王

うひもれわたるもせむ
そのもろれてや枝をあらん

泮宣

拾抄

千とちよとぬれわたるもせむ
そのもろれてや枝をあらん

檜垣姫

後撰

うやちよとぬれわたるもせむ
そのもろれてや枝をあらん

重之

貫之

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

花山院

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

無名

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

赤深

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

無名

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

同

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

貫之

わがまゝにふりかへりては
しるべきこととていふは

ももらふらふりしとてさるる

舞花

歌成部

さきさきふらふりしとてさるる

うのふらふりしとてさるる

後撰

藤成國

秋乃田のふらふりしとてさるる

うのふらふりしとてさるる

無名

阿のふらふりしとてさるる

さきさきふらふりしとてさるる

後拾

長儲

さきさきふらふりしとてさるる

さきさきふらふりしとてさるる

能因

同

秋乃田のふらふりしとてさるる

さきさきふらふりしとてさるる

夏

躬順

さきさきふらふりしとてさるる

さきさきふらふりしとてさるる

建興卿

後拾

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

後撰

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

時身月信

望集六如此

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

江信境

後拾

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

嘉言

周

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

周

伊勢大輔

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

貫之

後撰

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

橘為義

後拾

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

ふりしるくふりしるくふりしるくふりしるく

前さき一いっ席しやく院いん了りやう時とき

うやうやしくんぞしき
ふのれやほろろ

後拾

うづもゝもやんらひそそ
とのゝのやあをらん

無名

後撰

此乃石室之細丁也
つゝとて、あゝなる風

經子
信子
卿子

金葉

何れも自らいふは強し也
 ともいふもよみ月留るる

戒秀

志之

毎に心成るるなりとの事
 是れ尔を成るるなりとの事

源之

後拾

山崎 とうきよはるしんや
表のうしろふしん

源や
養や
又が

拾遺

河を舟に乗せて立ぬ

うらも秋の山をへてけり

藤大綱者 長末大末

ゆきもてふ雪の河をへてけり

雪もけり雪の河をへてけり

拾遺

長融

日くくもふ雪をへてけり

金糸

歌子卿

うらも秋の山をへてけり

暮

平基範

秋の山をへてけり

金葉

藤基俊

うらも秋の山をへてけり

同

信卿

うらも秋の山をへてけり

信卿

同

もも山めらうあーいほまれ
せいのなふーいーいさか

萬葉

いかしきまうき
竿子取筆

人丸

もも山めらうあーいほまれ
せいのなふーいーいさか

古今

無名

わひされ山ーあまのうきまて
はさけの城せれそりあつ

作者可
知

万葉

もも山めらうあーいほまれ
せいのなふーいーいさか

もも山めらうあーいほまれ
せいのなふーいーいさか

古今

無名

わひされ山ーあまのうきまて
はさけの城せれそりあつ

同

同

もも山めらうあーいほまれ
せいのなふーいーいさか

後撰

あ
教忠卿

もも山めらうあーいほまれ
せいのなふーいーいさか

古今

行平卿

これらもまたそのうちより目につく處に
世のうらやまをうけしむるものなり

後撰

無名

秋もよき時をうけてふけふ
よもれどもそのうちより目につく處に

古今

同

これらもまたそのうちより目につく處に
よもれどもそのうちより目につく處に

亦六人撰

高光の將

これらもまたそのうちより目につく處に
よもれどもそのうちより目につく處に

後撰

無名

これらもまたそのうちより目につく處に
よもれどもそのうちより目につく處に

後拾

同

これらもまたそのうちより目につく處に
よもれどもそのうちより目につく處に

同

賴廣法師

これらもまたそのうちより目につく處に
よもれどもそのうちより目につく處に

わすれられぬもの

経朝臣

金葉

金葉
わすれられぬもの
何もの心ひきく

△ 古物異名 略摘要

天あめわすれられぬ 日ひの心こころ 月つきひきく
雨あめあられぬ 風かぜの心こころ 雲くもあられぬ
樹きの心こころ 水みづの心こころ 地ちの心こころ
おろしひきく 霞かすみあられぬ 虹にじあられぬ

河かの心こころ 高たかの心こころ 海うみの心こころ 道みちの心こころ 平ひらの心こころ 春はるの心こころ 時ときの心こころ 草くさの心こころ 葉はの心こころ 花はなの心こころ 鳥とりの心こころ 虫むしの心こころ 魚ういの心こころ 蛇へびの心こころ 蜘蛛くもの心こころ 神かみの心こころ

十月

農のともたれりいづるを

とてしるすはるはる

一説

といふはるはるはる

水

泉のきつるはるはる

とてしるすはるはる

十月

ちとれりいづるはるはる

とてしるすはるはる

十月

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

十月

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

十月

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

十月

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

十月

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

とてしるすはるはる

△五言歌詞

あまのこ

弥年也

とむ

響也

とろ

動也

とろ

數鳴也

あま

繁也

とろ

斑也

あま

雨晴也

あま

且用也又朝食

あま

夕所設也

あま

率也

あま

新掃也

あま

穂也

あま

月夜也

あま

夜降也

あま

清也

あま

夕凝也

あま

甚振也

あま

隨意也

あま

水産也

あま

默然也

あま

来鳴也

あま

勝也

あま

天皇又雨皇

あま

来振也

あま

水産也

あま

神也

あま

水産也

あま

水産也

あま

東也

あま

水産也

あま

洞也

已上見方集

あま

あま

あさく山

かき山

くさく山

とくせ山

^{那波}なは山

あられ山

ゆき山

^{大和}おほなみ山

くさく山

^{大和}おほなみ山 ^象ぞう

くさく山 春日あり

くさく山

あられ山

うの花山

^山やま山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

^{肥後}肥後山

くさく山

くさく山

くさく山 白鳥

くさく山

^{大和}おほなみ山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山

井戸山

くさく山

くさく山

くさく山

くさく山 小綿

きく山

くさ山

くさ山 五

くさ山 五

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山 五

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

くさ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

坂

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

岳

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

うひひ山

井のひのき

ももつな

杜

ひのきのもも

ももつな

ももつな

野の

かきつな

あめ

ももつな

あめの

ももつな

ももつな

あめの

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

あめの

ももつな

ももつな

あめの

ももつな

ももつな

あめの

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ももつな

ほろちの
ひるれ
うこの
ほろちの
うれわの
わろちの
うろちの
ひあの

原

ほろちの
ちろちの
うこの
あろちの
うれわの
ほろちの
みろち
まの

まろちの
ろちの
ちろちの
うろちの
ひあの

海 付 門

まろちの
ろちの
ちろちの
うろちの
ひあの

まろちの
ろちの
ちろちの
うろちの
ひあの
あろちの
うれわの
わろちの
うろちの
ひあの

まろちの
ろちの
ちろちの
うろちの
ひあの
あろちの
うれわの
わろちの
うろちの
ひあの

つれづれ

ほろろと

ふゆまのせと

は 甘 涙 漬

やうのやう

まろやうふ

うね

なう

もろろ

くまぬの

あつた

やうの

うね

うろやう

うね

うね

ひろ

やうの

ひろ

津 甘 漬

うね

なう

わ

あつた

ひろ

の

津

うね

なう

うね

ひろ

うね

うね

うね

やうの

三

あなを

高麗

あはれもの

18

のう

Omaha

以

その

ひさの

如

[illegible]

4
 3
 2
 1

子

かたがは

まのうろ

子

あはれ

濱

知不足齋

孝

とてのう

わさね

ちのう

如

みづのうへ

わろ

さむのう

73
21
3

あひる

五

Handwritten signature: *Wm. Lloyd Garrison*

めづる

卷之四

42
 3
 2
 1

さ

22

李氏

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

かきくくく

あり

の

済

みくくく

みくく

くくくく

くくくく

御くく

みくく

かひのくくく

あくく

くくくく

ゆのく

やうひのく

くくく

わはく

あきく

くくく

くくく

の

くくく

あふく

あく

わ井のく

くく

くく

くく

さく

河内河内河内

の

みく

の

くく

あ

くく

ひれきり ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

ひれきり

もみさくしりやうの
いけのわう

やうのう
うのわう

あやう

池

もみさくしりやうの

もみさくしりやうの

あやう

あやう

あやう

あやう

あやう

あやう

あやう

あやう

井

井

あやう

あやう

あやう

あやう

橋

あやう

あやう

あやう

里付村

あやう

あやう

あやう

あやう

あやう

あやう

かきくも
いひいれ
離^ざ
うかり
うかり
とそまのち
うれさる
とそまの神

さきふのこ
あさうら
のれさ
うまのち
わのれさ
やうれ

